



スポーツデイ 3年生全員リレー・3年5組の皆さんの作品

吾孀二中 ニュースレター

墨田区立吾孀第二中学校

令和3年6月1日
校長 駒田 るみ子

・・・言葉を学ぶ、言葉に遊ぶ・・・

「拍手」という応援

先日ある文章で、俳優の故高倉健さんの言葉が紹介されました。「・・・沖縄県石垣島で、ある小・中学校の合同運動会に行くわした。そのとき運動会では、おじいさん・おばあさんが藁から縄をなうことを競う種目をやっていた。それを見ていた高倉健は、いつの間にか一生懸命手を叩いていたそうである。そのときのことを綴ったものだ。

「ぼくの仕事は俳優だから、よくひとから拍手される。でも、拍手されるより、拍手するほうが、ずっと心がゆたかになる」
（『南極のペンギン』集英社）

先日のスポーツデイでは、制限のある中での熱のこもった応援をいただきありがとうございました。

心苦しくも、生徒一人に保護者一人の応援という点や、大声ではない応援をお願いいたしました。窮屈なお願いの中、保護者の皆様が整然と応援してくださっているお姿に、生徒達はもちろんです。教職員一同、心から感謝申し上げます。その応援を受けて、生徒達は本当によく頑張っていました。どの学年からも思い出に残るよいスポーツデイだったと、充実感を伝える感想が届いていました。声ではない言葉が生徒の心にしみていました。

吾孀二中でも、教職員一同皆様と同じように、心から生徒に拍手を送り、見守っていきたいと思います。

「仁に過ぎれば・・・」

校長 駒田 るみ子

五常訓とは戦国の武将伊達政宗の名言です。

- ・仁に過ぎれば弱くなる。
- ・義に過ぎれば固くなる。
- ・礼に過ぎれば諂（へつらい）いとなる。
- ・智に過ぎれば嘘をつく。
- ・信に過ぎれば損をする。

当時大切にされていた「五常の徳」の「仁・義・礼・智・信」は大事であるが、何事も行き過ぎてしまうと害になる。

意味

- ・相手への思いやりや優しさが過ぎれば、自分が弱くなってしまう。（相手のためにならない、という解釈もあります。）
- ・筋を通そうと正しい行いに囚われては融通がきかなくなる。
- ・礼儀正しさが過ぎれば、嫌味となり逆に無礼である。
- ・知識や経験が増え賢くなり過ぎると嘘をつくようになる。
- ・他人を信じ過ぎればだまされて損をしてしまう。

「仁に過ぎれば弱くなる」ドラマで出てきた言葉にはっとしました。この言葉は伊達政宗の五常訓です。「仁」とは論語の教えを説いた孔子が最も大切にされた概念で「他人を思いやる優しい心」。その「仁」はたくさんあった方がよいのに、と反論したくなる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

意味は「思いやりが過ぎると自分が弱くなる」もしくは「相手のためにならない」。他の4つも全て人として大事な道徳ですが、何事もバランスが大事ということです。

これは教育の現場でも言えるかなと日頃の悩みが思い出されました。学習でも部活動でも、教員が生徒をどこまで引き上げるかは悩ましい点です。一人一人の生徒それぞれに応じてハードルの高さが違います。現状に甘んじることなく、もっと上を目指せば、自ずと苦しさが伴います。現状に甘んじてしまえば、伸びないというわけです。

それでも、「頑張ったね、素晴らしいね、それじゃ次はここを目指そう。」と大人は声をかけます。そう簡単にハードルを上げられても辛いという生徒も多いことでしょう。だから、最後はやはり自分自身の向上心次第です。辛くても苦くても頑張る気持ち。辛かったら苦しかったら、SOS出す気持ち。どちらもとても大事です。そしてそのバランスをしっかりと見守りたいと考えています。

AWARD-WINNING

○硬式テニス 東京都中学校第5ブロックテニス大会 優勝



吾婦二中のホームページです。ご活用ください。↑

☆スポーツデイ

5月15日(土) 爽やかな青空のもと、各学年別にスポーツデイとして、大縄と全員リレー、3年生は学級対抗リレーを加えて、学級対抗の運動競技に取り組みました。

この日までに体育の時間で、それぞれの競技に学級の皆で力を合わせて練習してきた成果が発揮されて、「せーの」と声がそろって大縄を跳んでいる様子やバトンの受け渡しがスムーズに行われている場面が随所に見受けられ、とても充実したスポーツデイとなりました。

◇1年と特別支援学級大縄



◇2年全員リレー



◇3年大縄・全員リレー・学級対抗リレー



☆生徒総会



5月7日(金) 6時間目にリモートによる生徒総会を実施しました。各学級からの質問を生徒会役員が代読して、質問に対して各委員長が答えるという内容で進行了ました。生徒会役員、各委員長共に堂々と質疑応答できました。